



# マジシャンの心構え

会員

菊池 秀 <55期>

随分と昔の人になりますが、アメリカにマックス・マリニという有名なマジシャンがいました。彼は、人に借りた帽子の中から氷の塊を取り出すというマジックを得意としていました。食事の最中に突然頼まれても、見事にこのマジックを演じて、一緒に食事をしている人を驚かせたそうです。どうしてそんなことができるのか。答えは簡単で、いつそのマジックを演じてくれと言われてもいいように、食事の前から準備をしておいたのです。食事中どうやって冷たい氷を持ち続けたのかは私にもよく分かりませんが、とにかく相当前から入念な準備をしていたはずで、しかもそのマジックを見せてほしいと言われるかどうか分からないのに。彼は、そのマジックを自然に演じられる状況にならなければ、たとえ面倒な事前の準備が無駄になったとしても、決して無理にマジックを演じることはなかったそうです。マジックを見せてほしいと言われなかったり、あるいは全く別のマジックを見せてほしいと言われたりしたために、準備した氷の塊を取り出すことなく溶かしてしまったことも、きっと数え切れないくらいあったのではないのでしょうか。無駄になるかもしれない面倒な準備を常にあらかじめしておくことこそ、プロのプロたる所以かもしれません。

私などは、下手なアマチュアに過ぎませんが、無駄になるような準備をすることがないわけでもありません。マジックを演じる際に、ある1つのマジックが失敗した場合に備えて、それをフォローできる別のマジックを準備しておくことなどです。例えば、お客さんのカードを当てなければいけないマジックで、そのカードが分からなくなってしまうことがたまにあります。あつてはいけないことなのですが、いろいろな事情が重なると起



きないこともない事態です。そのときのために、カードが分からなくてもできるマジックを別に用意しておいて、もし万一お客さんのカードが分からなくなってしまう場合には、途中から急遽そちらのマジックに切り替えたりします。お客さんにしてみれば、私がどういうマジックをするのか分かっていませんので、途中から別のマジックに替わっても気付くことはありません。もし失敗しなかったら、準備したマジックは演じないだけのことで。

しかし、私の場合、マリニのように常日頃から四六時中無駄になるかもしれない周到な準備をしておくことなど全くできていません。マジシャンたる者、「マジックを見せてください」と言われて、「今は準備してません」などと言うことは言語道断なのでしょうが、私の場合、結構、平気でそう言ってしまうたりします。マジシャンとしては、大いに反省すべきことだと思っています。マジシャン弁護士としては、「ハトを出してください」と言われたら、たとえ裁判所であっても即座にハトを出せるくらいの準備をいつもしておかなければいけないのかもしれない。